

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	第 23-1 小委員会
事務局	一般財団法人日本配線システム工業会 (原案作成：日本規格協会)

<規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 8285（2018）
対応国際規格番号（版）	IEC 60309-1（第 4 版(1999)、Amd.1(2005)及び Amd.2(2012)）
規格タイトル	工業用プラグ、コンセント及びカプラ
適用範囲に含まれる主な電気用品名	差込プラグ、コンセント、コードコネクタボディ
廃止する基準及び有効期間	J60309-1（H23）、有効期間 3 年間

<審議中に問題となったこと>

審議中に問題になった主な事項は、次のとおり。

a) **一般要求事項（4.1）** 対応国際規格では“IP23 以上の保護等級をもたなければならない。”と規定しているが、旧規格では、デビエーションで屋内使用のものには IP20 も認めていたため、デビエーションを残すかを審議した。対応国際規格の制定時から順を追って確認したところ、**IEC 60309-1** の第 3 版（1997）からの規定（新設計については、IP23 以上の保護等級をもたなければならない。）が引き継がれていたため、審議の結果、既に十分な移行期間を経ていると考えられること、及び屋内で使用するものに対して IP23 以上を要求することに支障がないことが確認できたため、対応国際規格の既定のとおりとした。

b) **タイプ 2 の接続可能導体のサイズ（表 3B）** 11.5.1 の表 4-2（機械試験の条件）では、単線接続の欄に“3.2（mm）”が規定されているが、旧規格の表 3B には記載されていなかったため、表 3B にも追記するか審議した。審議の結果、定格 30 A の一般用コンセントの適用電線には“3.2（mm）”も含めているため、この規格の表 3B にも追記することとした。

c) **ルーチン試験における耐電圧試験の条件（19.3）** この規格の適用範囲には電気用品を含んでおり、電気用品の該当する製品については、電安法第 8 条第 2 項に基づき、施行規則別表第三の完成品について行う検査（ルーチン試験）を一品ごとに行う必要があるが、対応国際規格にはルーチン試験に関する規定がないため、規定する必要性及び規定内容について、審議した。審議の結果、ルーチン試験で実施する絶縁耐力試験（耐電圧試験）は、技術上の基準を定める省令の解釈に規定する方法に基づくことになるが、19.3 に規定するように 1 分間の試験では大量生産の際に支障が生じるおそれがあるため、ルーチン試験では試験時間を短縮できる旨の注記を追加した。

なお、国際整合の観点から、JIS C 60664-1 の 6.1.5.2 を参考に、試験電圧はこの規格の 19.3 の既定のとおりとした。

d) **衝撃エネルギー（表 12）** 旧規格では、表に記載のない定格電流のものに対して、“50 A 以上は 2 J とする。”とのデビエーションを規定していたが、対応国際規格で 125 A を超える定格電流に対するエネルギーとして、3 J 又は 4 J を規定したため、どのように規定するかを審議した。審議の結果、旧規格では対応国際規格の規定が 125 A 以下の定格電流に対するものだけだった版に対

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

して追加されたデビエーションであることが確認できたため、**表 12** の“その他の定格”の欄を電流範囲で規定し、旧規格のデビエーションを削除することで矛盾が生じないようにした。

＜主な国際規格との差異の概要とその理由＞

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概 要	理 由																								
11.6	<p>表 4-4—試験電流</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>タイプ</th><th>公称断面積 mm²</th><th>試験電流 ^{a)} A</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">タイプ1</td><td>1.0</td><td>13.5</td></tr> <tr> <td>1.5</td><td>17.5</td></tr> <tr> <td>2.5</td><td>24.0</td></tr> <tr> <td>4.0</td><td>32.0</td></tr> <tr> <td>6.0</td><td>41.0</td></tr> <tr> <td>10.0</td><td>57.0</td></tr> <tr> <td>タイプ2</td><td>—</td><td>定格電流の 1.5 倍</td></tr> </tbody> </table> <p>注 a) 試験電流は、この表の試験電流、又はアクセサリに対する表 8 の試験電流のうち、いずれか小さい方の電流を適用する。</p> <p>(タイプ 2 の試験電流を、公称断面積ごとの規定から定格電流の 1.5 倍に変更)</p>	タイプ	公称断面積 mm ²	試験電流 ^{a)} A	タイプ1	1.0	13.5	1.5	17.5	2.5	24.0	4.0	32.0	6.0	41.0	10.0	57.0	タイプ2	—	定格電流の 1.5 倍	<p>表 4-4 のタイプ 2 の試験電流は JIS C 8282-1 に合わせて定格電流の 1.5 倍とした。</p>					
タイプ	公称断面積 mm ²	試験電流 ^{a)} A																								
タイプ1	1.0	13.5																								
	1.5	17.5																								
	2.5	24.0																								
	4.0	32.0																								
	6.0	41.0																								
	10.0	57.0																								
タイプ2	—	定格電流の 1.5 倍																								
19.3	<p>注記 2 製造後に行う全数検査（ルーチン試験）で耐電圧試験を行う場合は、18.5 の加湿試験を行わず、また、試験時間を 2 秒間（自動タイミングをもつ試験装置では、1 秒間）以上としてもよい。</p> <p>(注記 2 を追加)</p>	<p>対応国際規格にルーチン試験の規定がないため、ルーチン試験の耐電圧試験の条件を注記に追加した。</p>																								
24.2.2	<p>表 12—衝撃エネルギー</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">定格電流 A</th><th rowspan="2">エネルギー J</th></tr> <tr> <th>推奨定格電流</th><th>その他の定格</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16</td><td rowspan="2">49 以下</td><td rowspan="2">1</td></tr> <tr> <td>32</td></tr> <tr> <td>63</td><td rowspan="2">50～125</td><td rowspan="2">2</td></tr> <tr> <td>125</td></tr> <tr> <td>—</td><td>126～199</td><td>3</td></tr> <tr> <td>250</td><td rowspan="6">200～800</td><td rowspan="6">4</td></tr> <tr> <td>315</td></tr> <tr> <td>400</td></tr> <tr> <td>630</td></tr> <tr> <td>800</td></tr> <tr> <td>—</td></tr> </tbody> </table> <p>(その他の定格の欄を電流範囲での規定に変更した。)</p>	定格電流 A		エネルギー J	推奨定格電流	その他の定格	16	49 以下	1	32	63	50～125	2	125	—	126～199	3	250	200～800	4	315	400	630	800	—	<p>表 12 に、推奨定格電流以外の場合の規定を電流範囲にすることで、6.1.8A に規定したタイプ 2 の定格電流が 125 A を超える場合の試験条件を明確にした。</p>
定格電流 A		エネルギー J																								
推奨定格電流	その他の定格																									
16	49 以下	1																								
32																										
63	50～125	2																								
125																										
—	126～199	3																								
250	200～800	4																								
315																										
400																										
630																										
800																										
—																										

＜主な改正点＞

主な改正点は、次のとおり。

- a) 適用範囲**（箇条 1） 旧規格では定格動作電圧が 690 V 以下、定格電流が 250 A 以下のものと規定していたが、この規格では定格動作電圧が 1000 V 以下、定格電流が 800 A 以下に変更した。この適用範囲の拡大に伴い、**5.1** の細別、**表 1**、**表 3**、**表 4-2**、**表 4-3**、**表 6**、**表 7**、**表 8**、**表 9**、**表 10**、

表 11、表 12 及び図 13 を変更した。

- b) **区分** (箇条 6) 充電部に対するアクセスのしやすさによる区分を、**6.1.8** として追加した。
- c) **試験に使用する石油溶剤について** (7.6) 表示の消えにくさを確認する際に用いる石油溶剤の成分を明確にした。
- d) **“floating” の和訳について** (11.1.6、16.4、16.5 及び 17.1) 対応国際規格における“floating”の和訳について、旧規格では、“浮動 (に) する”と和訳していたが、一般に理解しにくい表現と考えられるため、**11.1.6 注記 2** については、**JIS C 8462-22** (家庭用及びこれに類する用途の固定電気設備の電気アクセサリ用のボックス及びエンクロージャー第 22 部：接続用ボックス及びエンクロージャに対する個別要求事項) の図 AA.1 に記載する“フローティング端子” (閉端接続子) に該当することが確認できたため、“フローティング (閉端接続しなどの固定することを意図しない) 端子”とし、**16.4**、**16.5** 及び **17.1** については“固定しない”と意識した。
- e) **インターロック** (箇条 12) 定格電流が 250 A を超えるアクセサリ又は負荷を加えた状態で開閉を意図しないアクセサリにインターロックを要求し、その要求事項については、直接 **IEC 60309-4** を引用した。
- f) **直流定格動作電圧への対応** 直流の定格動作電圧に対応するために、**15.8**、**16.9** 及び **17.3** を適用するアクセサリに、定格動作電圧が直流 120 V を超えるものを追加した。
- g) **排水口を備えるアクセサリに対する保護等級の緩和事項** 排水口に関しては、該当するプローブが充電部に触れることがない限り、プローブが開口部に侵入してもよいとする緩和事項を **18.2** に追加した。
- h) **試験方法の JIS 引用** 保護等級、耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性の試験方法に関して、関連する **JIS** を引用した。それによって、この規格で規定する必要のなくなった旧規格の図 3、図 4、図 10、図 11a、図 11b 及び図 12 を削除した。

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

規格番号： JIS C 8285 (2018) 規格名：工業用プラグ、コンセント及びカプラ

＜技術基準省令への整合性＞

[illegible]

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

					63 A 125 A 250 A 315 A 400 A 630 A 800 A	
				箇条 8	箇条 8 寸法（全細分箇条を含む） プラグ、コンセント及びカプラの適切なかん合性の要求を規定している。	
				箇条 11	箇条 11 端子及び終端（11.1.4、11.1.5、11.2.2、11.2.3、11.3.2、11.3.3、11.4.2 及び 11.4.3 を除き、全細分箇条を含む）	
				箇条 12	箇条 12 インターロック	
				12.1	12.1 定格電流が250 Aを超えるアクセサリ又は付加を加えた状態で開閉を意図しないアクセサリは、IEC 60309-4 に規定するインターロックを備えるか、又は IEC 60309-4 の規定するインターロックが組み込めるようになっていなければならない。	
				箇条 14	箇条 14 一般的構造	
				14.2	14.2 コンセント接点を備えた部分又はプラグ極を備えた部分を、箱、又は外郭内の取付け面に固定するためのねじ又はその他の手段は、容易に触れることができるものでなければならない。	
				箇条 15	箇条 15 コンセントの構造（15.4、15.6 及び 15.8 を	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<div>簡条 16</div> <div>簡条 17</div> <div>簡条 20</div> <div>簡条 23</div> <div>23.2</div> <div>23.2.1</div> <div>簡条 25</div> <div>簡条 26</div> <div>26.2</div>	<p>除き、全細分簡条を含む)</p> <p>簡条 16 プラグ及びコネクタの構造 (16.3 及び 16.を 除き、9 全細分簡条を含む)</p> <p>簡条 17 機器用インレットの構造 (17.3 を除き、全 細分簡条を含む)</p> <p>簡条 20 開閉性能 インターロックのないアクセサリは、適切な開閉容 量をもたなければならない。</p> <p>簡条 23 可とう電線及びその接続</p> <p>23.2 プラグ及びコネクタに関する要求事項</p> <p>23.2.1 電線非交換形プラグ及びコネクタ タイプ 1 のアクセサリは、表 9 に規定するタイプの 一つの、公称断面積が表 9 に規定する数値以上の、 JIS C 3663-4 に適合する可とう電線を付けなければなら ない。 タイプ 2 のアクセサリは、表 3B の公称断面積以上の 可とう電線を付けなければならない。</p> <p>簡条 25 ねじ、通電部及び接続部 (25.1、25.5 及び 25.6 を除き、全細分簡条を含む)</p> <p>簡条 26 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパ ウンドをとおしての絶縁距離</p> <p>26.2 シーリングコンパウンドは、それを収納する空 洞の縁からはみ出してはならない。</p>	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有す る設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発 生を防止するとともに、発生時における被害を軽減	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<div>簡条 9</div> <div>9.2</div>	<p>簡条 9 感電に対する保護</p> <p>9.2 接地極をもつアクセサリは、次のように設計し</p>	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

		する安全機能を有するよう設計されるものとする。		9.3 箇条 10 10.2 箇条 29 29.1	<p>なければならない。</p> <p>－ プラグ又はコネクタを差し込むとき、相接続及びある場合は中性線の接続が行われる前に、接地接続が行われる。</p> <p>－ プラグ又はコネクタを引き抜くとき、接地接続が切れる前に、相接続及びある場合は中性線が切れる。</p> <p>9.3 プラグ極に通電する部分をコンセント又はコネクタの外郭に間違って組み付けることができてはならない。</p> <p>箇条 10 接地接続</p> <p>10.2 絶縁不良の場合に充電部となることがある接地端子をもつアクセサリの可触金属部は、構造によって接地端子に確実に接続しなければならない。</p> <p>箇条 29 条件付き短絡電流試験</p> <p>29.1 コンセント及び結合するプラグは、10 kA 又は製造業者が指定したよりも高い値の最小固有短絡電流に耐えなければならない。</p>	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 7 箇条 23 23.2.1	<p>箇条 7 表示（7.4 及び 7.6 を除き、全細分箇条を含む）</p> <p>表示すべき内容を規定している。</p> <p>箇条 23 プラグ及びコネクタに関する要求事項</p> <p>23.2.1 電線非交換形プラグ及びコネクタ</p> <p>接地端子に接続する心線を緑と黄色との組合せで識別しなければならない。</p>	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 11.1.4 箇条 13 箇条 20 箇条 21 箇条 25 25.1 25.6 箇条 28	箇条 11 端子及び終端 11.1.4 端子部は、機器に生じる条件下で、意図した使用に適切な機械的強度、導電性及び耐腐食性をもつ金属製のものでなければならない。 箇条 13 ゴム及び熱可塑性材料の耐劣化性 ゴム又は熱可塑性材料製の外郭並びにシーリング及びガスケットといったエラストマ製の部分をもつアクセサリは、十分な耐劣化性をもたなければならない。 箇条 20 開閉容量 耐久試験後、試験品は、その後の使用を妨げるような損傷があつてはならない。また、プラグ極の入口の穴が重大な損傷を示してはならない。 箇条 21 通常操作 アクセサリは、過度の摩耗又はその他の有害な影響なしに、通常の使用で生じる機械的応力、電氣的応力及び熱応力に耐えなければならない。 箇条 25 ねじ、通電部及び接続部 25.1 電氣的又はその他の接続部は、通常の使用で生じる機械的応力に耐えなければならない。 25.6 通常の使用で滑り作用を受ける接点は、耐食性の金属製でなければならない。 箇条 28 耐食性 外郭を含む鉄製部分は、さびから適切に保護しなければならない。	
-----	------------------	---	--	--	--	--

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

<p>第五条</p>	<p>使用者及び使用場所を考慮した安全設計</p>	<p>電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。</p>	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条 14 14.4</p> <p>箇条 15 15.7</p> <p>箇条 16 16.7</p> <p>16.8</p> <p>箇条 17 17.2</p>	<p>箇条 14 一般的構造</p> <p>14.4 通常の使用状態のように取り付け、プラグが所定位置にない場合には、コンセント及びコネクタは、その表示に示す保護等級を確保しなければならない。</p> <p>さらに、プラグ又は機器用インレットをコンセント又はコネクタと完全にかん合したときに、二つのアクセサリの低い方の保護等級を確保しなければならない。</p> <p>箇条 15 コンセントの構造</p> <p>15.7 完全な囲いを実現する手段及び表示の保護等級がある場合は、その確保する手段をコンセントに確実に取り付けなければならない。さらに、プラグを完全にかん合したときに、表示の保護等級を確保する手段をコンセントに組み込まなければならない。</p> <p>箇条 16 プラグ及びコネクタの構造</p> <p>16.7 プラグには、対応するアクセサリと完全にかん合したときに水気に対する表示の保護等級を確保する手段を組み込まなければならない。</p> <p>16.8 コネクタには、対応するアクセサリと完全にかん合したときに表示した保護等級を確保する手段を組み込まなければならない。</p> <p>表示の保護等級を確保する手段は、コネクタにしっかりと固定しなければならない。</p> <p>箇条 17 機器用インレットの構造</p>	
------------	---------------------------	---	---------------------	---	---	--

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<p>簡条 18</p> <p>18.1</p> <p>18.5</p>	<p>17.2 機器用インレットには、適切なコネクタが完全にかん合したときに、表示している水気に対する保護等級を確保する手段を組み込まなければならない。</p> <p>工具を用いなければ取り外すことができない附属キャップがある場合、機器用インレットは、キャップを適正に取り付けたときにもこの要求事項を満たさなければならない。</p> <p>簡条 18 保護等級</p> <p>18.1 アクセサリは、製品に表示した保護等級をもたなければならない。</p> <p>18.5 すべてのアクセサリは、通常の使用で生じる湿潤状態に耐えなければならない。</p>	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>簡条 11</p> <p>11.1.4</p> <p>11.1.5</p> <p>簡条 21</p>	<p>簡条 11 端子及び終端</p> <p>11.1.4 端子部は、機器に生じる条件下で、意図した使用に適切な機械的強度、導電性及び耐食性をもつ金属製のものでなければならない。</p> <p>11.1.5 接地端子の本体がアルミニウム又はアルミニウム合金のフレーム又は外郭の一部である場合、銅とアルミニウム又はその合金との接触から生じる腐食の危険を避ける予防措置をとらなければならない。</p> <p>簡条 21 通常操作</p> <p>アクセサリは、過度の摩耗又はその他の有害な影響なしに、通常の使用で生じる機械的応力、電氣的応力</p>	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<p>箇条 25 25.5</p> <p>25.6</p> <p>箇条 27</p> <p>箇条 28</p>	<p>及び熱応力に耐えなければならない。</p> <p>箇条 25 ねじ、通電部及び接続部</p> <p>25.5 端子以外の導電部の材質は、次のいずれかでなければならない</p> <ul style="list-style-type: none"> － 銅 － 50 %以上の銅を含む合金 － 耐食性及び機械的特性が銅と同等以上のその他の金属 <p>25.6 通常の使用で滑り作用を受ける接点は、耐食性の金属製でなければならない。</p> <p>コンタクトチューブの弾性を確保するスプリングは、耐食性のある金属製又は適切に耐食保護したものでなければならない。</p> <p>箇条 27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性（全細分箇条を含む。）</p> <p>箇条 28 耐食性</p> <p>外郭を含む鉄製部分は、さびから適切に保護しなければならない。</p>	
第七 条 第 1 項	感電に対する保護	<p>電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。</p> <p>一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。</p>	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条 9</p> <p>箇条 11 11.1.8</p>	<p>箇条 9 感電に対する保護（全細分箇条を含む）</p> <p>プラグ、コンセント及びカプラに感電に対する保護要求が規定されている。</p> <p>箇条 11 端子及び終端</p> <p>11.1.8 端子は、次のように配置又は遮蔽しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 端子から緩んだねじ又はその他の部品が、充電 	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

					<p>部と接地端子に接続した金属部との間に電氣的接続を確立することがない。</p> <p>— 充電端子から外れた導体が、接地端子に接続した金属部に接触することがない。</p> <p>— 接地端子から外れた導体が充電部に接触することがない。</p> <p>11.1.9 導体を適切に固定している場合は、異極の充電部同士又は充電部と可触金属部との偶発的接触の危険があつてはならず、より線導体の素線が端子から外れた場合は、その素線が外郭の外に出る危険があつてはならない。</p> <p>箇条 15 コンセントの構造</p> <p>15.4 コンセントの外郭及び感電保護を行う部分は、適切な機械的強度をもたなければならない。それらは、通常の使用で緩まないようにしっかりと固定しなければならない。工具を用いずにそれらの部分を取り外せてはならない。</p> <p>15.8 定格動作電圧が交流 50 V 又は直流 120 V を超えるコンセントには、接地極を付けなければならない。</p> <p>箇条 16 プラグ及びコネクタの構造</p> <p>16.9 定格動作電圧が交流 50 V 又は直流 120 V を超えるプラグ及びコネクタには、接地極を付けなければならない。</p> <p>箇条 17 機器用インレットの構造</p> <p>17.3</p>	
--	--	--	--	--	---	--

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<div>簡条 27</div> <div>27.2</div>	<p>17.3 定格動作電圧が交流 50 V 又は直流 120 V を超える機器用インレットには、接地極を付けなければならない。</p> <p>簡条 27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>27.2 耐熱試験後、その後の使用を妨げるような変化があつてはならず、充電部が露出してしまうほどシーリングコンパウンドが流れてはならない。</p>	
第七條 第2項	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	簡条 10	<p>簡条 10 接地接続（全細分簡条を含む）</p> <p>感電を防ぐため、接地接続に関する手段を規定している。</p>	
第八條	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<div>簡条 16</div> <div>16.3</div> <div>簡条 19</div> <div>19.1</div> <div>簡条 26</div> <div>26.1</div>	<p>簡条 16 プラグ及びコネクタの構造</p> <p>16.3 絶縁裏打ちを付ける場合、絶縁裏打ちは、適切な機械的強度をもち、重大な損傷なしにはそれを取り除くことができないように外郭に固定するか、又は間違った位置に交換することができないように設計しなければならない。</p> <p>簡条 19 絶縁抵抗及び耐電圧</p> <p>19.1 アクセサリは、適切な絶縁抵抗及び耐電圧性能をもたなければならない。</p> <p>簡条 26 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパウンドを通しての絶縁距離</p> <p>26.1 沿面距離、空間距離及びシーリングコンパウンドを通しての絶縁距離は、表 16 に規定する数値(mm)以上でなければならない。</p>	
第九條	火災の危険源か	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、	<input checked="" type="checkbox"/> 該当	簡条 27	簡条 27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

	らの保護	又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input type="checkbox"/> 非該当	27.4	27.4 絶縁材料製の外郭部分及びアクセサリの充電部を支持する絶縁部分は、異常な熱及び火に対する耐性がなければならない。	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 22	箇条 22 温度上昇 アクセサリは、通常の使用での温度上昇が過大にならない構造でなければならない。 端子の温度上昇は、50 K 以下でなければならない。	
第十一 条第1項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 11.2.3 11.3.2 11.4.2 箇条 14 14.1 箇条 23 23.2.2	箇条 11 端子及び終端 11.2.3 ねじ形端子は、十分な接触圧力で、導体をきず付けることなく金属面の間に導体を締め付けるように設計しなければならない。 11.3.2 ねじなし端子は、十分な接触圧力で、導体をきず付けることなく金属面の間に導体を締め付けるように設計しなければならない。 11.4.2 絶縁貫通端子は、十分な接触圧力で、導体をきず付けることなく金属面の間に導体を締め付けるように設計しなければならない。 箇条 14 一般的構造 14.1 アクセサリの可触面に、ばり、鋳ばり及びこれに類する鋭い角があつてはならない。 箇条 23 可とう電線及びその接続 23.2.2 電線交換形プラグ及びコネクタは、次による。 ー ケーブル止めは、電線に対する鋭い角があつてはならず、止め具ではなくアクセサリの外郭を開けたときに止め具又はその部品が紛失するおそれの	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<p>ないように設計しなければならない。</p> <p>電線入口に電線の損傷を防止するスリーブを付ける場合、そのスリーブは絶縁材でなければならない、滑らかで、ばりがあつてはならない。</p> <p>箇条 25 ねじ、通電部及び接続部</p> <p>25.1 電氣的又はその他の接続部は、通常の使用で生じる機械的応力に耐えなければならない。</p>	
第 十 一 条第2項	機械的危険源による危害の防止	2 電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>箇条 10 接地接続</p> <p>10.4 接地極は、機械的損傷から保護するように覆うか又は防護しなければならない。</p> <p>箇条 11 端子及び終端</p> <p>11.2.2 ねじ形端子は、適切な機械的強度をもたなければならない。</p> <p>11.3.3 ねじなし端子は、適切な機械的強度をもたなければならない。</p> <p>11.4.3 絶縁貫通端子は、適切な機械的強度をもたなければならない。</p> <p>箇条 15 コンセントの構造</p> <p>15.4 コンセントの外郭及び感電保護を行う部分は、適切な機械的強度をもたなければならない。</p> <p>15.6 絶縁裏打ち、バリア及びこれに類するものは、適切な機械的強度をもたなければならない、また、重大な損傷なしにはそれらを取り除くことができないか、又は間違つた位置に置きかえることができないように設計し、金属ケーシング又は本体のこていし</p>	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<p>箇条 16 16.3</p> <p>箇条 23</p> <p>箇条 24 箇条 25 25.1</p>	<p>なければならない。</p> <p>箇条 16 プラグ及びコネクタの構造</p> <p>16.3 絶縁裏打ちを付ける場合、絶縁裏打ちは、適切な機械的強度をもち、重大な損傷なしにはそれを取り除くことができないように外郭に固定するか、又は間違った位置に交換することができないように設計しなければならない。</p> <p>箇条 23 可とう電線及びその接続（23.2 を除き、全細分箇条を含む）</p> <p>外部からの力が可とうケーブルを介してその接続部に加わらない構造の要求を規定している。</p> <p>箇条 24 機械的強度（全細分箇条を含む）</p> <p>箇条 25 ねじ、通電部及び接続部</p> <p>25.1 電氣的又はその他の接続部は、通常の使用で生じる機械的応力に耐えなければならない。</p>	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 4 4.1</p>	<p>箇条 4 総則</p> <p>4.1 アクセサリは、通常の使用においてその性能に信頼がおけ、使用者又は周囲に対する危険がない設計及び構造でなければならない。</p>	
第十三条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 30 30.2</p>	<p>箇条 30 電磁両立性</p> <p>30.2 放射</p> <p>この規格の適用範囲のアクセサリは、連続した使用を意図しており、通常の使用において電磁波による傷害を発生しない。</p>	<p>電子回路をもたないことから、一般的に、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波を発生しない</p>

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

						め、非該当が妥当と考える。
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 4 4.1	箇条 4 総則 4.1 アクセサリは、通常の使用においてその性能に信頼がおけ、使用者又は周囲に対する危険がない設計及び構造でなければならない。	
第十五条第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、通電状態において常に動作しており、始動・停止の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十五条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	同上
第十五条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	同上
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 10 10.3 箇条 11 11.2.1	箇条 10 接地接続 10.3 接地極は、過熱することなく相接点の規定電流に等しい電流を流せなければならない。 箇条 11 端子及び終端 11.2.1 ねじ形端子は、表 3 又は表 3A に示す公称断面積をもつ銅又は銅合金製の導体を適切に接続でき	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				<p>11.3.1</p> <p>11.4.1</p> <p>箇条 23</p> <p>23.2.1</p> <p>箇条 29</p> <p>29.1</p>	<p>るものでなければならない。</p> <p>11.3.1 ねじなし端子は、表 3 又は表 3A に示す公称断面積をもつ銅又は銅合金製の導体を正しく接続できるものでなければならない。</p> <p>11.4.1 絶縁貫通端子は、表 3 又は表 3A に示す公称断面積をもつ銅又は銅合金製の導体を適切に接続できるものでなければならない。</p> <p>箇条 23 可とう電線及びその接続</p> <p>23.2.1 電線非交換形プラグ及びコネクタ</p> <p>タイプ 1 のアクセサリは、表 9 に規定するタイプの一つの、公称断面積が表 9 に規定する数値以上の、JIS C 3663-4 に適合する可とう電線を付けなければならない。</p> <p>タイプ 2 のアクセサリは、表 3B の公称断面積以上の可とう電線を付けなければならない。</p> <p>箇条 29 条件付き短絡電流試験</p> <p>29.1 コンセント及び結合するプラグは、10 kA 又は製造業者が指定したよりも高い値の最小固有短絡電流に耐えなければならない。</p>	
第 十 七 条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<p>□該当</p> <p>■非該当</p>	<p>箇条 30</p> <p>30.1</p>	<p>箇条 30 電磁両立性</p> <p>30.1 イミューニティ</p> <p>この規格の適用範囲のアクセサリの通常の使用における動作は、電磁波による障害によって影響を受けない。</p>	<p>電子回路をもたないことから、一般的に、電磁的妨害による誤作動はないため、非該当が妥当と考え</p>

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

						る。
第 十 八 条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	箇条 30 30.2	箇条 30 電磁両立性 30.2 放射 この規格の適用範囲のアクセサリは、連続した使用を意図しており、通常の使用において電磁波による障害を発生しない。	電子回路をもたないことから、一般的に、雑音は発生しないため、非該当が妥当と考える。
第 十 九 条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第四百号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 7 7.3	箇条 7 表示 7.3 コンセント及び機器用インレットは、定格電流、必要な場合は電源の種類、及び製造業者又は責任ある販売業者の名称又は商標の表示を、主要部分、外郭の外側又は工具を用いなければ外せない蓋がある場合には蓋のいずれかに付けなければならない。 埋込形コンセント及び機器用インレットを除き、これらの表示は、アクセサリを通常の使用状態のように取り付けて配線したとき及び必要であればアクセサリを外郭から外した後に、容易に認識できなければならない。絶縁電圧の表示をする場合は、主要部分に付けなければならないが、アクセサリを通常の使用のとおりに取り付けて配線したときにその表示が見えてはならない。 定格電圧、形式参照番号及び保護等級の表示、並びに接地極又はその他の互換性のある設置の手段の位置に表示する図記号は、アクセサリの取付け後に見える場所、外郭の外側又は工具を用いなければ外せな	

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

				7.4	い蓋がある場合には、蓋に付けなければならない。 形式参照番号を除き、これらの表示は、アクセサリを通常の使用のとおりに取り付けて配線したときに容易に認識できなければならない。 7.4 プラグ及びコネクタは、アクセサリが使用できるように配置したときに、絶縁電圧の表示をする場合を除き、7.1 に規定する表示が容易に認識できなければならない。	
				7.6	7.6 表示は、容易に消えず、読み取りやすいものでなければならない。	
				箇条 27 27.2	箇条 27 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性 27.2 表示は、試験後も容易に読み取れなければならない。	
第 二 十 条第1項	表示（長期使用 製品安全表示制 度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	長期使用製品安全表示制度の対象機器に該当しないため、非該当が妥当と考える。

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

		<p>第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。 以下同じ。)</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、 経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>				
第 二 十 条第2項	表示（長期使用 製品安全表示制 度による表示）	<p>二 電気冷房機（産業用のものを除く。） 機器本体 の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に 消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経 年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p><input type="checkbox"/>該当</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>非該当</p>	—	—	同上
第 二 十 条第3項	表示（長期使用 製品安全表示制 度による表示）	<p>三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有す るものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一 体 となっているものに限り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、か つ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示 すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、 経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p><input type="checkbox"/>該当</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>非該当</p>	—	—	同上

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

第 二 十 条第4項	表示（長期使用 製品安全表示制 度による表示）	<p>四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限 り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇 所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法 で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経 年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがあ る旨</p>	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	同上
---------------	-------------------------------	---	--	---	---	----